◇濱松の小川一男氏からサソリの標品2瓶を頂いた(1951年3月)。それらはキヨクトウサソリであるが產地や採集年月日，採集者名等は今では判らなくなつている。次に備忘として數値を掲げて置く。

	性	頭　胴　長	櫛狀器齒數	
1	♂	6+12.5=18.5粍	右20枚，	左20枚
2	♀	4+9=13	右19，	左18
3	♂	5.5+13.5=19	右22，	左23
4	♀	5+16.5=21.5	右18，	左12以上(一部折損)

體肥大し節間膜が延びている場合にはどうしても前腹部長は大きい値になる。No. 4 はその1例である。(高島春雄)

カ ニ ム シ ノ ー ト

◇京都大學農學部佐久間梅雄氏が1951年4月中旬京都市左京區の家屋內で採り種名を知らせて欲しいと送つて來られたのは分布汎世界的といわれるイエカニムシ Chelifer cancroides (Linné) であつた。これは日本でも普通のカニムシ故「日本動物圖鑑」などに圖示されていぬのが不思議な位である。イエカニムシという名は私は森川國康氏の「四國產蜘蛛類・多足類目錄」(1945)で覺えたのであるから森川氏が其の時命名されたものであろう。最近「採集と飼育」第13卷第4號 (1951) に宮崎惇氏がこの種類をナミカニムシという名で書いているので同氏に伺つたら標本查定者岸田久吉氏がそういう名で知らせて下さつたとのこと故，岸田氏が新に選ばれたものであることが判つた。

◇1949年7月高知女子大學石川重治郎氏から種名を知らせて欲しいとお送り下さつたカニムシ2種は Roncus (Roncus) japonicus (Ellingsen) と Tyrannochthonius japonicus (Ellingsen) に同定した。標品は高知高校2年生川澤哲夫氏が高知縣高岡郡上ノ加江町で採集したものである。これを調べた時判つたことだが「改訂增補日本動物圖鑑」(1947)にアギトツチカニムシ（別名ヨツメカニムシ，ツチカニムシ）Gnathochthonius japonicus Ellingsen とあるのは上記 T. japonicus と同種であるのだが Gnathochthonius なる屬名は右圖鑑で岸田久吉氏がお使いになつた新しい名であつた。T. japonicus に對しては岸田氏は1915年にはイボカニムシ，1927年にはヨツメカニムシ（別名アギトカニムシ，ツチカニムシ）としておられる。どれがよいか迷うがアギトツチカニムシ（上記圖鑑で新しく選ばれた名）に敬意を表することにしよう。

◇東大竹脇潔敎授が1950年5月23日東大理學部鼠小屋の中で偶然採集されたカニムシを1

頭下さつた。これの種名はまだきめかねているが，面白いのは2岐した背板が第1から第7までは正常であるが第8から第11まで左側のものが異常で畸形的である。第8背板は下縁膨出,第9から第11までは何れも圓形や勾玉狀などに萎縮している。

◇Microcreagrisというカニムシには日本產は5種ある。1934年までにこの屬は37種を含んでいた。その後 Zoological Récord で戰後最新の分まで當つてみたら M. parisi Vachon, M. indochinensis Redikortzev, M. chinensis Beier (南京產), M. heros Beier, M. lata Hoff, M. ozarkensis Hoff, M. abnormis Turk, M. cavernicola Vachon, M. balcanica Hadzi 等がふえて總べて46種程になつたようである。この Microcreagris という屬名の意味が判らないで困つている。(以上各項　高島春雄)

國立自然教育園內の蜘蛛 (追加)

本誌前號に約40種の和名を揭げた。その後，1947年と1948年にこの園近くの白金小學校の兒童達が採集したクモを，それを保管していた長谷川仁氏から渡され，その中に前回のリストに含まれていないものを幾つか見出したので追加する。長谷川氏並びに鑑識して頂いた植村利夫氏に謝意を捧げる。

ヤマシログモ科　42ヤマシログモ Scytodes nigrolineata Simon　コガネグモ科　43ヤマシロオニグモ Araneus scylla (Karsch)　44ヨツデゴミグモ Cyclosa sedeculata Karsch (卵嚢のみ)　ハエトリグモ科　45アカアリグモ Myrmarachne japonica Karsch　フクログモ科　46ムナアカフクログモ Clubiona vigil Karsch　(高島春雄)

尾瀨のヤスデ一斑

尾瀨沼を中心とする尾瀨濕原での動植物の採集調査は昨昭和25年のはやりになつた。學者，硏究者，熱心家が夏季には多數出かけたようである。昆蟲學者長谷川仁氏が昆蟲採集の餘力を以て多足類をも若干採りそれを私に寄贈して下さつた。それを三好保德氏が調査して次の如くお知らせ下さつた。標品は現在三好氏のお手許にある。

1 Japonaria laminata (Attems) オビババヤスデ　1950年7月16日，至佛山，1♂　同年9月19日，富士見峠，3♂♂ 5♀♀

2 Epanerchodus sp.　オビヤスデ1種　1950年9月19日，1♀ (♂が無いので種名まで決定し難い)

3 Karteroiulus niger Attems　クロヒメヤスデ

1950年7月14〜15日，富士見峠，1♂ 2♀♀　以上記して後日の備忘とする。富士見峠も至佛山も濕原からは離れた所である。　(高島春雄)